

令和4年度 市民と市長の対話集会 市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和4年（2022年）9月12日（月）
午後1時30分から2時30分まで
- 2 開催場所 市役所302会議室
- 3 参加者 若手介護職員（入職5年以内）9人
- 4 テーマ 働き続けたい介護現場であるために



ほっとミーティングの様子

5 市長あいさつ

本日は、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただきありがとうございます。新型コロナウイルス感染症が拡大して、既に2年半以上が経過しています。介護職員などエッセンシャルワーカーの皆様には、感染リスクが高い中で、御尽力をいただき、誠にありがとうございます。本市の感染状況ですが、昨日9月11日には121人の感染発表があり、これまでの累計で26,188人が感染され、残念ながら46人がお亡くなりになりました。人口当たりの累計感染者数の多さを県内19市で比較しますと、本市は県内で18番目です。これも市民の皆様の感染対策のおかげであると考えています。

まもなく敬老の日ですが、本市在住の100歳以上の方は166人、99歳が84人といずれも過去最多となりました。また介護認定を受けられている方は、この10年で約1.5倍となり、令和3年は約1万2,000人となりました。長寿社会が進むと、介護ニーズも高まり、介護現場を支えていただく皆様のような存在は、とてもありがたく貴重な存在です。本市としても、介護施設の増設や、介護人材の確保について、様々な支援を行っていますが、まだまだ十分とは言えない状況であることは重々認識しています。本日は皆様から介護現場の現状や課題、また課題解決のための御提案もいただけると伺っています。ぜひ率直な御意見をお聞かせいただきたいと思います。本日はよろしくお願ひします。

6 主なミーティングの内容

【司会】

本日の「市長と語ろう！ほっとミーティング」の準備のために、事前に2班に分かれてグループワークを行い、介護現場における現状と課題、課題解決に向けた改善策として「若手介護人材の確保」と「介護現場の負担軽減」について大きく2つにまとめていただいています。提案発表をしていただいた後に、市長と意見交換を進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。各班からの発表の前に、氏名、仕事の内容、趣味など自己紹介をお願いします。

【参加者】

養護老人ホームで働いています。主に介助やリネン交換の仕事をしています。趣味は読書です。

【参加者】

特別養護老人ホームで働いています。介護度が高い入所者が多いので、食事や入浴など生活全般をサポートします。趣味は音楽鑑賞です。

【参加者】

デイサービスの事業所に勤務しています。朝自宅に迎えに行き、日中はレクリエーションなどで楽しんでもらい、夕方は自宅に送るという仕事をしています。趣味はお酒を飲むこととアニメ鑑賞です。

【参加者】

通所介護施設で、入浴のお手伝いをしたりレクリエーションをしたりしています。趣味は中学・高校で吹奏楽部でしたので、楽器の演奏が好きですが、コロナ禍であまりできていません。

【参加者】

福祉用具の販売やレンタルを主に行い、介護保険外で遺品整理などの仕事もしています。趣味はスポーツ全般ですが、最近はボルダリングやゴルフを主にしています。

【参加者】

特別養護老人ホームで働いています。入所者の生活全般を介助しています。趣味はカラオケと買い物です。

【参加者】

デイサービスの事業所で働いています。レクリエーションや体操などで利用者に楽しんでもらうことが主な仕事です。趣味は猫と遊ぶことです。

【参加者】

特別養護老人ホームで働いています。私の施設も介護度が重い利用者が多いので、生活全般を介助する仕事をしています。趣味は音楽鑑賞です。

【参加者】

私も特別養護老人ホームで働いているため、入浴、食事など生活全般の介助をしています。趣味はスポーツをすることで、バレーボールが特に好きです。

【司会】

皆様ありがとうございました。本日は若手の精鋭が集まってくれています。どうぞよろしくお願いします。

【市長】

自己紹介を聞いて、アクティブな趣味をお持ちの方が多いと感じました。日々の業務では御苦勞も多いと思います。趣味を通じて、仕事とプライベートの切り替えやストレスを発散することはとても大切なことだと思います。

【司会】

では、1班から「若手人材の確保」についての発表をお願いします。

【参加者】

これまでのグループワークの中で、「働きたい職場」と「現在の職場」のギャップについて考えました。その中で、人手が足りず本当にやりたいケア

ができない、一緒に働く職員に同世代が少なく気軽に相談しづらい、一人当たりの仕事量が多い、利用者一人ひとりに合わせた設備がなく、あるものを工夫するしかない、といった意見が出ました。私たちの班では、「人手が足りない」「同世代の職員が少ない」といった課題から、若手介護人材の確保をテーマに検討しました。

解決策としては2つ挙がりました。資格取得支援と介護職のイメージアップです。

まず、1つ目の資格取得支援についてですが、求人には「資格なしでも可」となっているにもかかわらず、実際に働いてみると資格が必要な業務が多く、資格取得を求められるケースがあり、仕事を始めたり、続けたりするハードルになっていると思います。また資格取得に当たって、研修受講料が事業所負担か自己負担であるか、研修受講が出勤扱いとなるかなど事業所によってまちまちです。このような現状から、市でも資格取得が取得しやすい制度を整えてほしいこと、スタッフが職場の心配をすることなく研修に参加できるよう、管理者に対して業務マネジメント研修を行ってほしいと考えました。職場環境が良くなれば、周りに介護職を進めやすくなると思います。

【参加者】

2つ目の介護職のイメージアップについてです。介護職場は3K（きつい、汚い、給料が少ない）とのイメージが定着しています。私たちは祖父母が身近にいたり、身内が福祉職に就いていたため、介護職に3Kのイメージは薄かったのですが、マイナスイメージを払拭する機会がないことが現状です。そのため、私たちが介護現場を紹介する動画を作成するとともに、多くの人に見てもらうために市の広報力を活用させていただくなど、市と連携していきたいと考えています。また、小中学校で体験授業を開催するなど、介護現場のイメージ向上のための機会を設けたいと考えました。

【市長】

人材の確保は重要な課題と捉えています。介護現場は御苦労も多い職場であると思いますし、マンパワーが確保されなければ、皆様も働き続けることが難しくなってしまうと思います。一方、介護現場で働く魅力ややりがいといったものが、十分に知られていない現状もあると思います。行政としても皆様と一緒に取り組んでいくべき課題だと感じています。

【参加者】

3K職場と言われることもありますが、実際に働いてみるとそれほどでもないと感じています。職業体験などで実際に体験してもらうことは、イメージアップに有効だと思います。

【参加者】

私も体験は有効だと思います。働いていると感謝の言葉をもらうことも多く、やりがいは大きい職場だと感じています。ぜひ職業体験等を通じて、そのやりがいを感じてもらいたいと思っています。

【参加者】

私自身も小学生の時に、ダンスの発表会を高齢者施設で行う機会があり、その中で入所者と交流をもったことが、入職するきっかけの一つになったと感じています。職業体験以外にも、高齢者と交流する機会があると良いと思います。

【司会】

今日はイメージアップについて、具体的な案を考えてくださった方がいますので、発表をお願いします。

【参加者】

イメージアップの具体案として、ユーチューブ配信が有効だと考えました。現在配信されている介護関係の動画を見ると、内容が堅く、専門的な内容が多いと感じました。そこで4つの内容を提案します。まず1つ目は、市内の福祉施設を訪問して、各施設の特色や良い取組をレポートする。その様子を見た他の介護関係者が自分の事業所で導入することで、良い取組が広がると理想的だと思います。2つ目は地域散歩等に同行して平塚市の名所等を発信する。介護職に限らず平塚市のシティプロモーションに繋がると考えます。3つ目は福祉用具の安全な使い方、危険な使い方を説明する。今ある動画では正しい使い方ばかりです。危ない使い方をした場合の危険性について説明することも重要だと考えました。最後が各種イベントへの参加レポートです。先日の防災フェアでは、介護分野でのブースを出させていただきました。とても有意義であったと感じていますので、これからもイベントに積極的に参加してその様子を動画で発信していくと良いと思いました。

これからも平塚市にも協力してもらいながら実現できると良いと思いました。もし個人や有志でやろうとしても、施設や入所者から理解や協力を得られないこともあります。行政が協力してくださると、施設や利用者からの信用力は格段に違うと思います。ぜひ御検討いただけるとありがたいと思います。

【市長】

やはり若い世代に発信するためにはSNSの活用はとても有効だと思います。市としてどのように協力できるかは検討させていただきたいと思っています。また高齢の方に対しても、老後も安心して住んでもらえるまちであることを知ってもらうための魅力発信としても有効だと感じました。大手不動産会社が実施したアンケート調査では、本市は「高齢者にとって住みやすいまち」として、関東圏で第3位にランクインしました。平坦な地形と温暖な気候に加え

て、皆様のような温かい介護職員が大勢いられること、また市内18カ所の町内福祉村など支え合いの仕組みができていくことなどが評価されたものと思っています。これからも、魅力アップと魅力発信に取り組んでいきたいと思っています。

【参加者】

もしこのユーチューブ配信が成功した時は、他市もまねをしたいと思います。ぜひどんどんまねをしてもらって、介護業界全体が良くなってほしいと思っています。

【司会】

次に2班から「介護現場の負担軽減」について発表をお願いします。

【参加者】

私たちは、介護現場の負担軽減のために、2つの解決策を考えました。1つは介護助手など多様な働き方の実現、もう1つが介護ロボットやデジタル化です。

まず1つ目の介護助手など多様な働き方の実現について、現状では私たちの担う業務には介護ケアだけでなく送迎、洗濯、事務処理など仕事が多岐にわたります。また一人ひとりが担当する仕事があいまいで、気が付いた人がやるとの雰囲気になってしまい特定の人に仕事集中しています。気が付いた人ほど時間外勤務が増えてしまいます。解決策としては、介助職員や介護助手の派遣制度などがあれば、介護業界への入り口として気軽に取り組むことができ、事業所としても助かると思います。

【参加者】

次に介護ロボットやデジタル化です。介護現場は女性が多い職場ですが、体格の良い利用者を介助することは体力面で大変です。男性でも腰を痛める人が多いです。また記録を残すことも多い仕事ですが、手書きで記録することが多いです。年配の職員ではデジタル機器に不慣れな方も多いことが、手書き中心となっている理由です。このため、介護ロボットやタブレットを導入することが課題解決に繋がりますが、管理者の視点では、現状でもなんとか業務が回っているとの認識であるため、高額な費用を投じて導入するメリットを感じていないと思います。メリットをイメージできていないことが大きなハードルとなっているため、このハードルを取り除くため、レンタル制度や操作セミナーなどがあると、導入するきっかけになると思います。管理者も介護職員も、介護ロボットやデジタル機器の便利さを体感すれば、導入を真剣に考える事業所も増えていくと思います。市でレンタル制度や体験会を行ったり、本格導入の際には補助制度があると、デジタル化、スマート化が進むと考えました。

【司会】

その他に補足意見等がありますか。

【参加者】

私の勤める事業所でも、障がい者雇用の方に掃除とリネン交換の業務をやってもらってとても助かっています。掃除とリネン交換は時間がかかる業務ですが、任せることで空いた時間を入所者のケアに充てられるのでとてもありがたい存在です。

【参加者】

私は介護ロボットが普及してほしいと思っています。自分の倍ほど体重がある利用者の介護をすることは、介護する方もされる方も危険が伴います。お互いの負担軽減に繋がると考えています。

【市長】

負担が大きい職場であることを改めて認識させていただきました。どのように負担軽減を図っていくか考えますと、コロナ禍によって一気に進んだDX（デジタルトランスフォーメーション）はとても有効であると考えています。

本市でもあらゆる分野で積極的に推進しています。例えば小中学校の児童生徒に1人1台タブレット端末を配備したり、これまで紙で販売していたプレミアム商品券を、スターライトポイントとして電子商品券として販売したりするなどしてきました。介護現場におけるデジタル化、スマート化は介護保険制度の中で実現されることが一番望ましいと思いますが、市としてどういった支援ができるか検討していきたいと思っています。

また、他業種での取組を御紹介させていただきますと、農業も人手不足であったり、3K（きつい、汚い、危険）のイメージがある業界と言われていましたが、無人の自動田植え機を始めスマート化を積極的に進めることで、新たな3K（カッコいい、稼げる、感動）へと転換を図っています。やはりデジタル化、スマート化は業界全体を大きく変えるきっかけになると思いますので、市としてもあらゆる分野で積極的に取り組んでいきたいと思っています。

【司会】

介護現場では記録は手書きが中心というお話がありました。もう少し詳しく教えてください。

【参加者】

私たち20歳代などはパソコンに慣れており、記録も電子化した方が楽だと思うのですが、中高年の職員は苦手意識があるようで、一向に進みません。

【参加者】

私の勤める施設では手書きと電子が半々程度といった状況です。

【参加者】

私の勤める施設では、全て手書きです。もっとデジタル化が進んでほしいと

思っています。管理者がデジタル化に消極的だと全く進みません。

【市長】

他業種の話になりますが、学校の先生方の働き方改革の中でも、デジタル化を推進しました。学校現場もこれまで手書き中心でしたが、デジタル化することで、より効率的に業務に取り組んでもらえるようになりました。また先ほど1班からの提案にもありました管理者の意識改革も重要だと改めて感じました。

【司会】

介護現場は女性が多く働いていると思います。女性からの視点で働きやすい職場であるための御意見などございますか。

【参加者】

私の個人的な感想として、同じ事業所に長く勤める方よりも、事業所を転々とする方が多いように感じています。ある方はフルタイムでの勤務が体力的にも、家事との両立する上でも厳しいと言って離職しました。先ほどの提案にもあったパートタイムや多様な働き方が可能になると、女性も働き続けたい介護現場になると思います。また力仕事が多い職場なので男性職員が増えてくると、女性も助かると思います。

【司会】

男性職員が少ない要因はどこにあると感じていますか。

【参加者】

男性の友人に介護職を勧めてみると、認知症の入所者からの暴言などに耐えられなさそうと言われます。

【参加者】

施設利用者も女性が多く、排せつや入浴介助は同性の介護職員にやってほしいとの希望が多く、中には異性職員を拒否する方もいます。

7 市長によるまとめ

本日の「市長と語ろう！ほっとミーティング」のために、グループワークを通じて、介護現場における現状や課題を分かりやすくまとめ、改善提案も考えていただき、ありがとうございました。また、コロナ禍など多くの御苦労がある中でも、やりがいをもって介護現場を支えていただいていることに、改めて御礼を申し上げます。

本日いただいた御提案は、担当部で検討してもらいたいと思っています。すぐに実現することは難しいかもしれませんが、少しでも皆様が働きやすい介護現場になったと実感してもらえるように、市として取り組んでいきたいと考え

ています。

私も幼いころ曾祖母と同居していたため、高齢者を身近に感じていましたが、核家族化が進んだ現在は高齢者とふれあう機会が少なくなっています。介護体験などを通じて、世代間交流を図っていくことはとても重要だと感じています。また、介護職がとてもやりがいが大きく、貴重な存在であることを発信していくことも重要であると考えています。

皆様がこれからも介護現場で御活躍されることを願っています。本日はありがとうございました。

以 上